

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
「公衆衛生医師の人材育成に向けた好事例の横展開に向けた研究」  
令和4年度 分担研究報告書

「医学生を対象とした公衆衛生学や公衆衛生医師に対する意識調査」

町田宗仁（国立保健医療科学院・研究代表者）、名越究（島根大学医学部）、藤井仁（目白大学看護学部）、武智浩之（群馬県利根沼田保健福祉事務所）、宮園将哉（大阪府健康医療部保健医療室）、山本長史（北海道渡島総合振興局（渡島保健所兼八雲保健所））、横山勝教（香川県東讃保健福祉事務所）、研究協力者：杉山雄大（国立大学法人国立国際医療研究センター研究所糖尿病情報センター、筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野）

**研究要旨**

**【目的】**

公衆衛生医師志望者の新規開拓のに向けた基礎資料となるべく、医学生に公衆衛生の講義、実習や業務など、公衆衛生の関心度について、意識調査を行った。

**【方法】**

公衆衛生学の講義ないし実習を受講中、ないしは終了後から半年以内の医学生を対象に、公衆衛生や公衆衛生医師に対する関心度について、2種類の Web によるアンケート調査を行った。（札幌医科、秋田、山梨、金沢、奈良県立医科、徳島、鳥取、浜松医科、香川、島根、鹿児島各大学医学部3ないし4年生、計1391名）

**【結果】**

1391名中371名が参加（回答率26.7%・大学ごとの回答率は7.7%～74.8%）。公衆衛生そのものに対する興味は、7割程度の学生は関心を持っている。公衆衛生に関心をより持ってもらえる、学生への働きかけが望まれる。公衆衛生医師キャリアに興味ありと回答した割合も1割を超えており、存在を知り、かつ、公衆衛生のキャリアに興味を持つ学生をいかに、公衆衛生行政に導けるかが、課題である。希望する公衆衛生医師の勤務形態は、臨床医の幅を広げるために数年経験したいという割合が最多である。まずは一旦、臨床医としての経験を積んだ後、非常勤などで、若手が公衆衛生分野に勤務し、業務を通じて公衆衛生に軸足を置いてもらえるような流れを想定し、そのように導いていくイメージを業界として共有していくことが大切である。

**【結論】**

潜在的に公衆衛生分野や公衆衛生医師に関心を持つ学生は存在することが、本研究から明らかになった。卒前教育の段階で、そのような学生に対し、公衆衛生医師の日常業務がわかりやすいように紹介し、魅力的と感じる勤務形態を提示することが望ましい。

## A. 研究目的

今般の新型コロナウイルス感染症のまん延は保健所を中心とした健康危機管理の重要性を浮き彫りにしたが、医療と行政の橋渡しを行う保健所等勤務の公衆衛生医師確保や人材育成については、これまで長年の懸案事項であった。「公衆衛生医師確保に向けた取組事例集」(2012年・厚労省)をもとに自治体が採用活動を展開しているものの、都道府県保健所の約1割が保健所長を兼務する状態が続いている。

本研究では、公衆衛生医師志望者の新規開拓に向けた基礎資料として、医学生に公衆衛生業務に関する意識調査を行い、医療と行政の橋渡しを行う公衆衛生医師の人材育成方策の横展開を推進するためのコンテンツ構築に資することを目指した。

## B. 研究方法

医学部公衆衛生学の講義ないし実習を受講中、ないしは終了後から半年以内の医学生を対象に、Webによるアンケート調査を行った。

ご協力いただいた各大学(札幌医科、秋田、山梨、浜松医科、金沢、奈良県立医科、香川、徳島、鳥取、島根、鹿児島)の医学部3ないし4年生(公衆衛生学の講義・実習を受講中、ないし、終了後半年以内)に対して、公衆衛生学教室ないしは、医学部学務担当課から協力依頼のメールを送信した。

統計解析について、数的分析はSPSS Ver.27を、質的分析(自由記載内容のテキストマイニング)は、KH-Coder、それぞれ用いた。

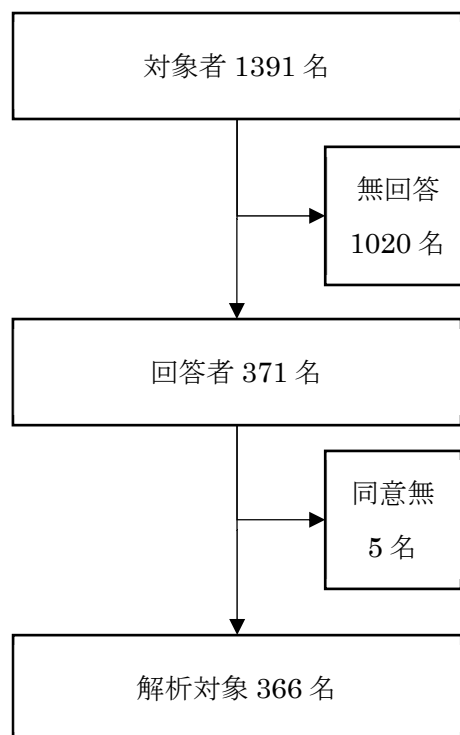
## <倫理的配慮>

国立保健医療科学院研究倫理審査委員会の承認を経て、実施した。

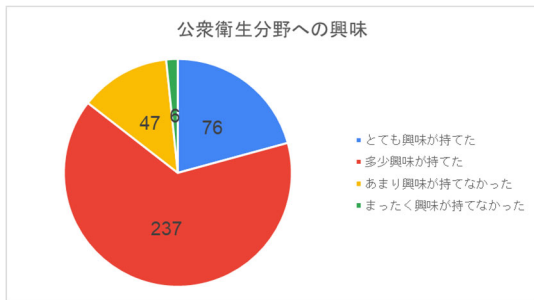
(承認番号 NIPH-IBRA # 12380)

## C. 研究結果

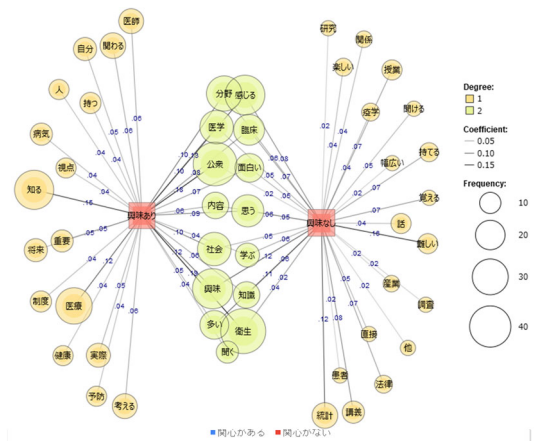
対象者1391名中371名が回答した(回答率26.7%・大学ごとの回答率は7.7%~74.8%)。調査の趣旨に同意を得られ、質問に回答いただいたのは、3年生152名、4年生214名(計366名)、性別は回答があったものとして、男性205名、女性161名であった。



1. いわゆる公衆衛生学科目を修了し、どのような印象を持ちましたか？

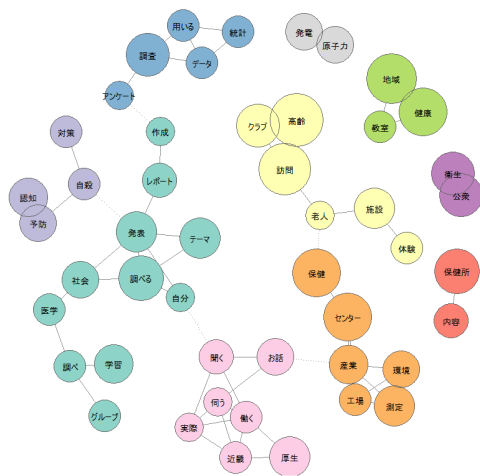


興味のあり、なしの理由

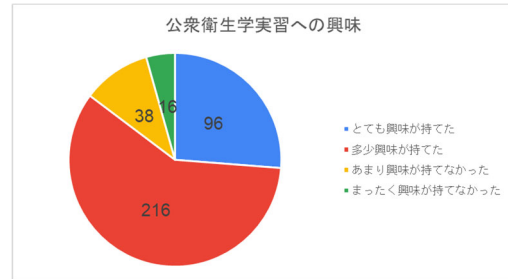


2. あなたの関心が強い公衆衛生の分野はどれですか（最大3つまで選択）

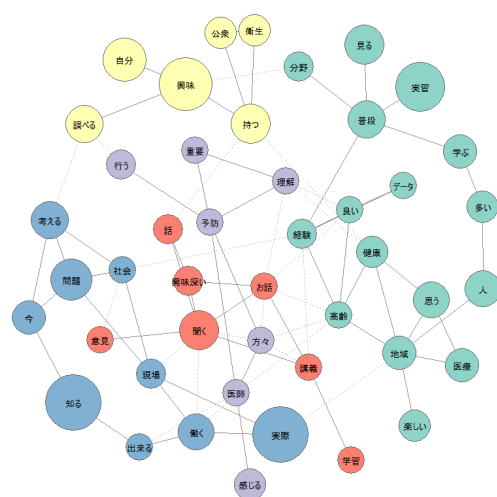
3. どのような公衆衛生学実習を経験しましたか。具体的にお答えください



4. 公衆衛生学実習について、どのような印象を持ちましたか？

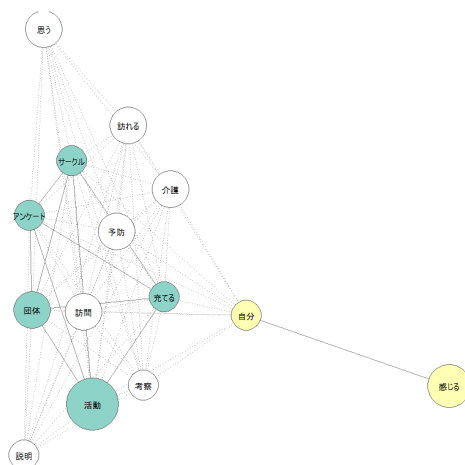


興味を持てた理由

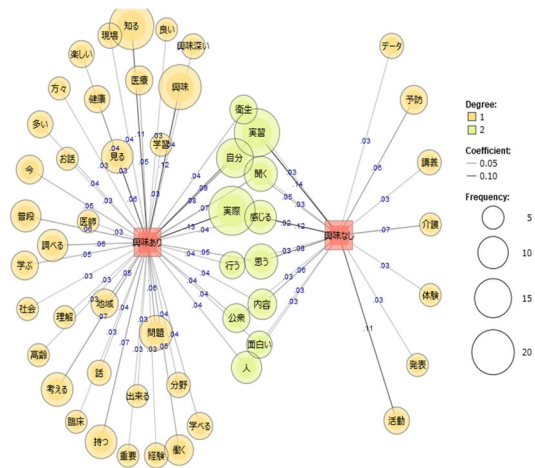


興味を持てなかった理由

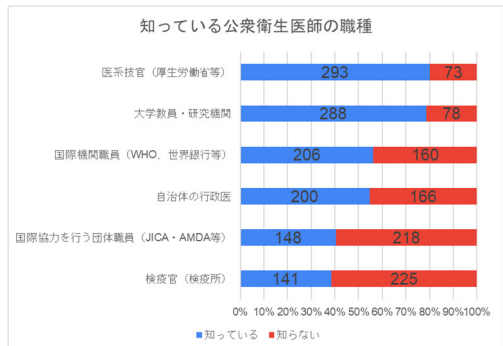
(同一単語が5回以上、登場しなかった)



公衆衛生学実習について、興味の有無の理由

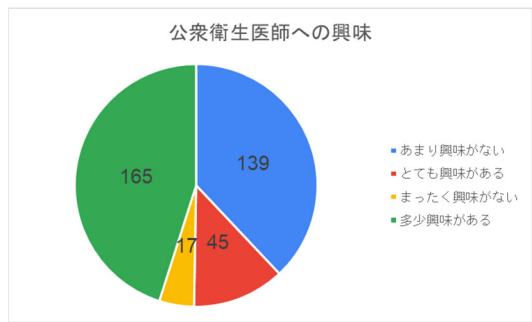
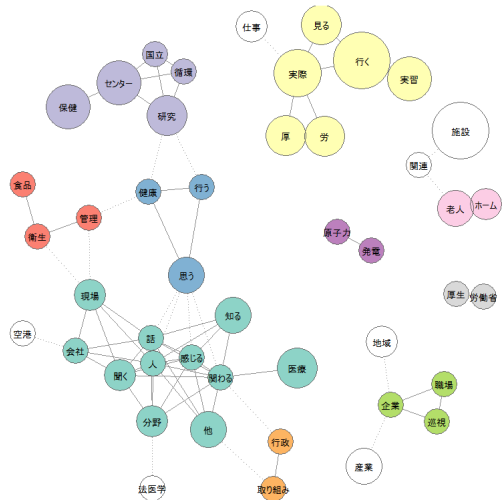


6. 臨床ではなく公衆衛生に携わる医師としてどのような職種を知っていますか？知っているものを選んでください。

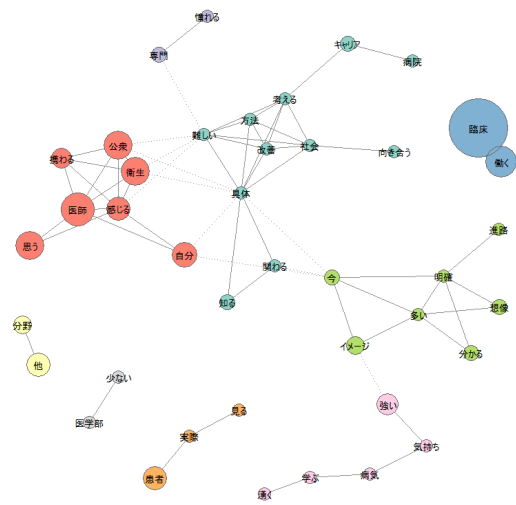


7. 臨床ではなく公衆衛生に携わる医師というキャリアに興味はありますか？

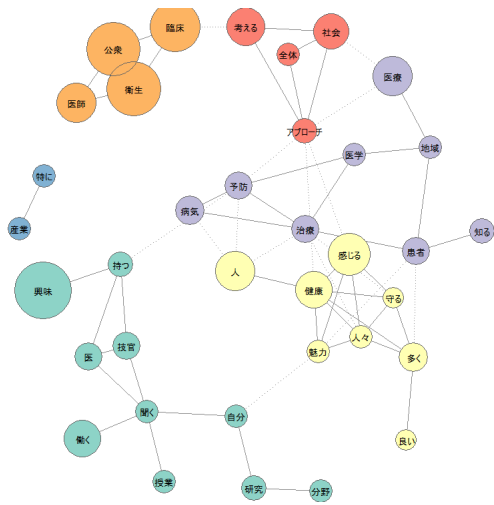
5. 公衆衛生学実習先として他にみてみたかったところはありますか



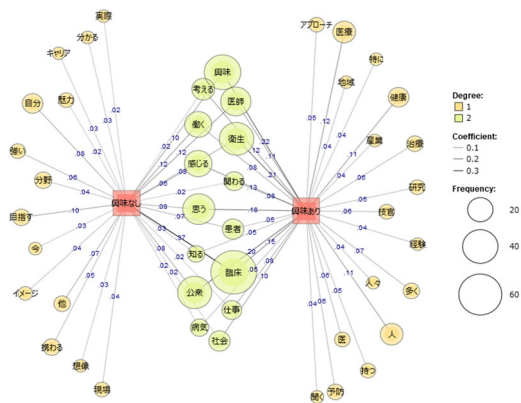
また、その理由についてお示してください。興味あり



### 興味なし



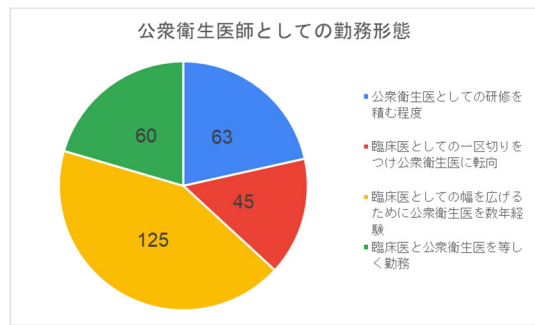
### 公衆衛生医師キャリアの興味有無の理由



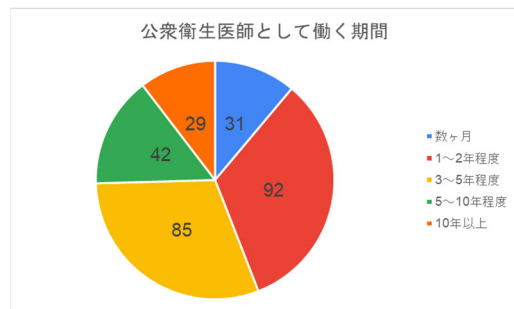
8. 医師として働くキャリアの一部だけでも公衆衛生に携わってみたいと思いますか。

はい	293
いいえ	73

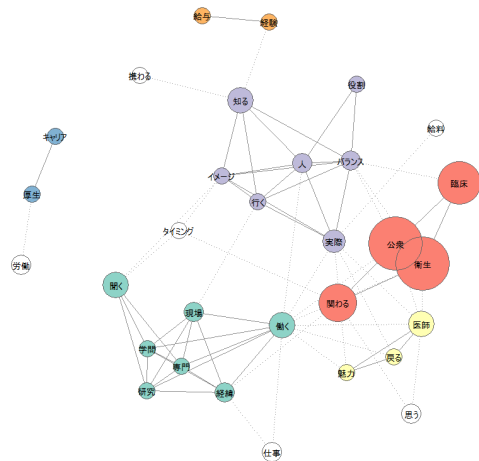
はいと回答された人にお尋ねします。その場合、どのような関わりを想定していますか。



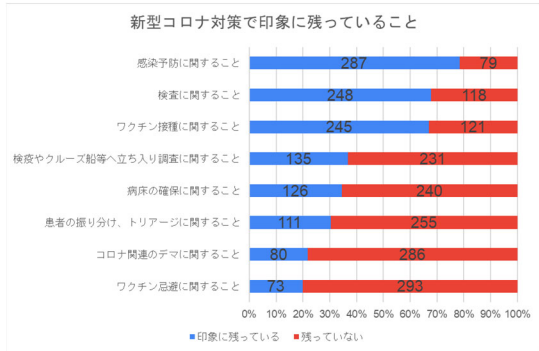
その期間は具体的にどの程度でしょう



9. 公衆衛生に関わる医師について、特に聞きたいことはありますか（自由記載）



10. 新型コロナウイルス対策で、自治体の保健所や公衆衛生医師がどのような役割を果たしているのか、印象に残っていることをすべて選んでください。



「公衆衛生学に興味があるか」、「公衆衛生学実習でどのような印象を受けたか」、「公衆衛生医師というキャリアに興味があるか」の3項目については、とても興味があるという回答を3点、多少興味があるという回答を2点、あまり興味がないという回答を1点、全く興味がないという回答を0点として、Spearmanの順位相関係数を求め、互いの相関の強さについて分析した。その結果、実習よりも講義のほうが公衆衛生医師というキャリアへの関心との相関が強かった。

### 分析1 公衆衛生のキャリアに影響する要素

質問	問1：講義	問4：実習	問7：キャリア
問1 いわゆる公衆衛生学科目を修了し、どのような印象を持ちましたか	1.000	0.550	0.512
問4 公衆衛生学実習について、どのような印象を持ちましたか	0.550	1.000	0.398
問7 公衆衛生に携わる医師というキャリアに興味はありますか	0.512	0.398	1.000

本調査結果に関して、相関係数の分析と同様に点数化した3項目について Mann-Whitney の U 検定を行い、公衆衛生キャリアに関心がある群とない群で、興味のある分野に統計的に有意な差があるかについて分析を試みた。

### 分析2 公衆衛生科目修了後の関心の有無による、興味を持った分野の違い

問1 いわゆる公衆衛生学科目を修了し、どのような印象を持ちましたか	関心あり	関心なし	p値
政策立案・医療計画	2.320	1.948	0.000**
健康危機管理	2.119	2.037	0.548
健康づくり・健康増進	2.099	2.017	0.320
がん対策	1.918	2.078	0.096
感染症対策	2.000	2.063	0.392
母子保健	1.944	2.089	0.027**
高齢者保健	2.237	2.024	0.056
精神保健・障害者対策	2.089	2.039	0.549
環境保健	2.111	2.043	0.745
産業保健	1.945	2.064	0.155
学校保健	1.949	2.065	0.107
食品保健・生活衛生	1.889	2.064	0.127
国際保健	2.158	2.034	0.260
疫学・衛生統計	2.292	1.993	0.001**

### 分析3 公衆衛生のキャリアに対する関心の有無による、興味を持った分野の違い

問7 公衆衛生に携わる医師というキャリアに興味はありますか	興味あり	興味なし	p値
政策立案・医療計画	1.959	1.539	0.000**
健康危機管理	1.833	1.627	0.083
健康づくり・健康増進	1.695	1.626	0.379
がん対策	1.411	1.710	0.002**
感染症対策	1.505	1.701	0.027**
母子保健	1.579	1.680	0.285
高齢者保健	1.684	1.646	0.828
精神保健・障害者対策	1.679	1.645	0.694
環境保健	1.722	1.647	0.720
産業保健	1.764	1.630	0.246
学校保健	1.559	1.668	0.266
食品保健・生活衛生	1.389	1.679	0.029**
国際保健	1.921	1.619	0.038**
疫学・衛生統計	1.785	1.621	0.129

## D. 考察

### 1) アンケート結果

公衆衛生そのものに対する興味は、決して低いわけではなく、多少興味がある学生まで含めれば、7割程度は関心を持っている（問1）。卒後はまず、臨床現場に出ること、また、ますます進行する少子高齢化を考えれば、地域包括ケアなど、地域の中での「臨床医の位置づけ」という視点は重要であり、臨床医志向の学生にも公

衆衛生に関心をより持ってもらえるような、学生への働きかけが望まれる。公衆衛生に興味を持っていない理由について、KH-Coderによれば興味なし群は「統計」「疫学」が難しい、「法律」の話に興味を持っていない、「臨床」に興味が強いと考えられた。

公衆衛生実習については（問3）、施設での活動見学関係（保健センター、工場での産業保健の現場、高齢者向けのサービス）や、調査分析関係（統計、データを用いた調査、テーマについて調査）が行われていた。実習に興味を持てた理由として（問4）、社会の問題を考える機会、実際の現場を知る機会、見る、学ぶ、経験する機会であることなどが考えられた。他に見てみたいところとして、厚生労働省、保健センターなどが挙げられた（問5）。KH-Coderによれば、公衆衛生学実習への興味がない群は、「介護」、「予防」、「データ」などに否定的な意見が見られた。一部の大学が介護施設見学を複数回入れたことも影響していることが考えられる。また、公衆衛生学イコールデータということが、否定的なイメージとなっていることが伺える。

公衆衛生医師キャリアに興味がある理由としては（問7）、社会全体を考えるアプローチ、臨床と公衆衛生の繋ぎなどが挙げられた。逆に興味のない理由は（問7）、臨床で働きたいことが多く挙げられた。「臨床家の視点の公衆衛生」というコンテンツがあると、学生の公衆衛生への関心が、増すのかもしれない。

公衆衛生に携わる医師として知っている職種があると回答した割合も（問6）、職種間の差はあるが3割～7割であり、また、公衆衛生医師に興味があると回答した割合も1割を超えており、存在を知っていて、かつ、興味を持つ学生をいかに、公衆衛生行政に導けるかが、課題である。公衆衛生医師への興味と感想について、

KH-Coderによれば、興味ありの群は、「医」系「技官」の話に関心を持たれたこと、興味なし群では、「イメージ」が湧かない、「想像」できないことが考えられた。

公衆衛生医師の勤務形態は、勤務に関心があるグループの中で、フレキシブルな臨床研修を望む若手世代であることを反映してか、臨床に一区切りをつけて転向するパターンよりも、臨床医の幅を広げるために数年経験したいという割合が最多である（問8）。まずは、非常勤やクロスアポイントなど何らかの形で、若手には公衆衛生分野に勤務をしていただき、業務を通じて公衆衛生に軸足を置いてもらえるような導きが大切である。公衆衛生医師に関することで、特に聞きたいこととして（問9）、公衆衛生と臨床の関わり方というものが多かった。

自治体の保健所や公衆衛生医師が、どのような役割を果たしているのかについて（問10）、2022年に調査したこともあって、感染予防、検査、ワクチンが上位を占めた。これらの業務は公衆衛生医師が担っているという認識は、学生にも持たれていると考えられた。

公衆衛生キャリアに影響する要素として（分析1）、講義より実習のほうが公衆衛生医師というキャリアへの影響が弱いとの結果であり、キャリアが判りやすいであろう、公衆衛生医師の活動現場を見せることのみならず、講義でも公衆衛生キャリアを考える機会となり得ることは、念頭に置かなければならない。

公衆衛生科目終了後、「公衆衛生に関心あり」の学生は「政策立案・医療計画」、「疫学・衛生統計」に統計的に有意に興味を持ち、「公衆衛生に関心ない」学生は「母子保健」に興味を持つ傾向だった。母子保健は、公衆衛生に関心ない層に対しても、公衆衛生の関心を持つことを働きかけるために、相応しい分野である可能性が考

えられた。

公衆衛生のキャリアに対する関心の有無による、興味を持った分野の違いについて(分析3)、「キャリアに関心あり」の学生は、「政策立案・医療計画」、「国際保健」に興味を持つ傾向にあった。具体的に公衆衛生キャリアで活動するイメージを持っていることが考えられる。「キャリアに関心ない」学生は、「がん対策」、「感染症対策」、「食品衛生・生活衛生対策」に興味を持つ傾向にあった。キャリアの関心と呼び起こすには、これら分野が公衆衛生分野に関わることにより携われることを、講義などを通じて伝えることで、より関心を持つ学生が増えるのかもしれない。

なお、公衆衛生という分野に関心がある学生が、本アンケート依頼に反応して回答している点に、留意しなければならない。

## 2) 医学部公衆衛生学教室ヒアリング

2022年9月から11月にかけて、本研究の医学生向けアンケートにご協力をいただいた5つの公衆衛生学教室(地域分散も考慮し、北海道東北、関東甲信越、東海北陸近畿、中国四国、九州沖縄のエリアから一つずつ)に、今回の結果を共有しつつ、以下の8項目につきヒアリングを実施した。聴取結果は以下のとおりである。

1. 公衆衛生医師のバリエーションやキャリア紹介を講義の中で行っていますか
  - ・全教室で実施。
  - ・行政医師が非常勤講師として講義や実習に関わっていた。楽しさが伝えられるかどうかポイント。
2. 外部の公衆衛生業務を行う機関で実習を行いましたか
  - ・全教室で実施。
3. 貴講座では日常的に公衆衛生業務を行う機関(国、地方自治体等)の業務と関わりがありますか(審議会委員、研究

受託等)

- ・全教室で何らかの業務を、地元県庁から依頼されていた。
  - ・審議会委員や研究受託については、疫学分野、医療政策分野のいずれかを扱っているところに分かれた。
4. 貴講座は最近10年間で公衆衛生業務を行う機関(国、地方自治体等)への人材供給の実績がありますか
    - ・教授の在職年数、すなわち、現行の教室の運営方針の継続期間に拠っていた。
    - ・教授の在職が長ければ長いほど、何らかの人材供給の役割を教室が果たしていたところもあった。
  5. 貴講座は地元の自治体の公衆衛生医師確保に資する共同事業を行っていますか(就職説明会、学生向けセミナーの開催など)
    - ・全教室で何らかの形では実施していた。
  6. 特に行政で働く公衆衛生医師の確保を効果的に行うには、自治体・大学の間でどのような対策を講じると良いと思いますか
    - ・行政医師が学生教育に関わり仕事の紹介ややりがいを伝えること
    - ・行政側が教室の行事に参加して定期的な交流を図ること
  7. 大学の社会医学系講座教員を含む、公衆衛生医師の確保への確保に対する、貴講座のスタンス・役割についてどのようにお考えかお聞かせください
    - ・教室が公衆衛生医師も輩出する意識を持つこと
    - ・公衆衛生医師の存在を伝えること
  8. 大学の社会医学系講座教員を含む、公衆衛生医師の確保への確保に対する、全国の社会医学系講座(公衆衛生)のスタンス・役割についてどのようにお考えかお聞かせください
    - ・教室が公衆衛生医師も輩出する意識を持つこと



- ・公衆衛生医師の存在を伝えること、これを全国的に展開すること

インタビュー先の教室から伺った限り、公衆衛生医師への導きに繋がるものとしては、

- ・外部講師として講義に公衆衛生医師を呼び仕事の魅力を楽しく語り
  - ・県庁からの仕事を受ける中で、公衆衛生医師希望者の発掘や紹介も行ってたこと
  - ・臨床医向けリクルートセミナーで公衆衛生医師についても臨床医と同じ並びで紹介することに協力していること
- などが挙げられた。定期的に公衆衛生医師確保担当と公衆衛生学教室が懇親会などで交流を図っている事例もあった。

医師の研究員を公衆衛生学教室にリクルートすること自体が、なかなか難しいという大学もあったことは事実であるが、それとは別に、保健医療行政との接点を持つ公衆衛生学教室が、公衆衛生医師を送り出す窓口役となることを、期待したい。

## E. 結論

潜在的に公衆衛生分野や公衆衛生医師に関心を持つ学生は存在することが、本研究から明らかになった。そのような学生に対し、講義や実習を通じて、公衆衛生医師の日常業務がわかりやすいように紹介し、魅力的と感じる勤務形態を提示することが望ましい。

公衆衛生のキャリアに興味を持つ学生をいかに、公衆衛生行政に導けるかが、課題である。希望する公衆衛生医師の勤務形態は、臨床医の幅を拡げるために数年経験したいという割合が最多である。まずは一旦、臨床医としての経験を積んだ後、非常勤などで、若手が公衆衛生分野に勤務し、業務を通じて公衆衛生に軸足を

置いてもらえるような流れを想定し、そのように導いていくイメージを業界として共有していくことが大切である。

## F. 引用文献

1. 吉田 穂波、町田 宗仁、名越 究、武智 浩之、宮園 将哉、山本 長史、横山 勝教、杉山 雄大、藤井 仁、尾島 俊之. 公衆衛生医師の人材育成・確保における調査レビューと今後の課題. 公衆衛生情報. 10:28-29 (2022)
2. 地域保健総合推進事業. 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書(2020). [http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/men\\_u04\\_2\\_r01\\_02.pdf](http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/men_u04_2_r01_02.pdf)

## G. 研究発表

### 学会発表

令和5年度に予定

### 論文発表

令和5年度に予定

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし